

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	『イル・フィロストラト』のAmorとAmor Perfettoについて
Auther(s)	西村, 政人
Citation	ニダバ , 29 : 30 - 37
Issue Date	2000-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00048063">http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00048063</a>
Right	
Relation	



# 『イル・フィロストラト』の Amor と Amor Perfetto について

西村 政人

## 0. はじめに

ボッカッチョの『イル・フィロストラト』（以下『フィロストラト』）はトロイロとクリセイダの恋の物語で、宮廷風恋愛を主題としたものである。本稿の目的は、この作品に現れた語 Amor に焦点を当て、その概念と詩人の表現の特色を明らかにし、さらにこの作品に現れる Amor perfetto についてもその概念を明らかにすることである。

## 1. Amor と Amore の分布状況

本稿で分析の対象とする語は Amor, Amore である。加えてボッカッチョが使っている Amor perfetto という表現である。

『フィロストラト』はその語源をギリシア語「愛によって打ち負かされた男」という意味に頼っており、トロイロのクリセイダに対する哀れな愛を扱った物語で、ボッカッチョ 23～25 歳に書いたとされている 8 行韻詩の騎士物語歌謡である。

最初に Amor, Amore という語の分布状況をコンコーダンスを使って調べてみる。物語は全部で 9 部から成っている。次の表はこれらの語の分布状況である。

パート 語	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX
Amor	10	25	15	19	7	2	9	5	2
Amore	8	18	8	12	4	3	5	5	0

主題の愛を表す語は当然多く使われている。特に第 2、第 3、第 4 に集中している。これは第 2 部はトロイロがパンダロに自分が恋に悩んでいるのを打ち明ける場面であり、第 3 はトロイロとクリセイダが幸福の絶頂に達して、はななだ官能的な

描写がなされてる。すなわち、ボッカッチョが愛の成功、歓喜へと盛り上げて行く過程に合わせてこれらの語の使用が増えていつている。ではこの2語ははどのような使われ方をしているのかを統語論の観点から見てみよう。

最初に気づく繰り返されている表現は *per amore* である。これは「愛のために」という意味であり、誓言としても用いられる。

Io so che 'n ogni cosa, per un sei  
tu vedi più di me, ma tuttavia  
s'io fossi in te, intera scriverei  
ad essa di mia man la pena mia,  
e sopra ciò per Dio la pregherei,  
e per amore e per sua cortesia,  
che di me le calesse; e questo scritto  
io glielo proterò senza rispitto. (Parte Seconda 91) <sup>1</sup>  
(すべてのことに、君はぼくより6倍もの理解力があります。しかし、ぼくが君の立場なら、自分で苦しみについてクリセイダに手紙を書きます。神かけて、愛にかけて、なにとぞクリセイダにお願いします。彼女がぼくのことを気にかけてくれることを。この手紙は遅れずにクリセイダに届けます。)

さらに特徴的なのは、無冠詞の表現と定冠詞もしくは所有形容詞のついた表現である。

E stando alquanto, poi si rivolgea  
nell'altra parte: <<Misera,>> dicendo  
<<che vuoi tu far? Non sai tu quanto re  
vita si trae con esso amor languendo,  
nella qual sempre convien che si stea  
in pianti ed in sospiri ed in dolendo,  
avendo poi per giunta gelosia  
che è peggio assai che ogni morte ria?

(Parte Seconda 75)

(話しをしばらくやめて、別の方をクリセイダは向いて言った。  
<<ああ何をしたいのですか。少しずつ弱っていく愛がどれほど悪い生活をもたらすかを知らないのですか。その実態は、涙を流し、ため息をつき、悲しみながら、それからさらに嫉妬の気持ちを持ちながら

生活していかななくてははいけないのです。惨めな死よりも悪いではありませんか。)

Che si dirà di te intra gli amanti  
se questo tuo amor fia mai saputo?  
di te si gabberebbon tutti qunati,  
di te direbbono: <<ecco il provveduto  
che' sospir nostri ed amorosi pinati  
morder soleva già, ora è venuto  
dove noi siamo; amor ne sia lodato  
ch'a tal partito l'ha ora recato>>. (Parte Prima 51)  
(このあなたの愛が知れることになったら、恋人たちは何と言うでしょう  
うか。皆があざけり笑い、言うでしょう。<<ご覧、私たちのため息  
と愛の悲しみを非難していた賢人が、今や私たちと同じ状態だ。愛の  
神をほめたたえましょう。あの人をここまでにさせたのですから。)

所有形容詞、定冠詞がつく表現形式はこの単語だけでなく、愛に関連のあるその他の語 *valor*, *valore* でも 29 例中 9 例あり、*amistà* の 2 例はすべてこの形である。名詞の前に何も無い場合は単なる概念の段階に止まり、作者がこれ以上現実化することもないことを示している。それに対して、修飾語句があると現実、具体化される。これは立体的な効果があると言える。また、*Amor* は脚韻語としては使われないのに対して、*Amore* は脚韻語として好まれている。

## 2. トロイロとクリセイダの愛

ここではボッカッチョの表そうとした愛とはどういうものであったかを検討してみる。『フィロストラト』において愛の捕らえ方は登場人物によって異なっている。トロイロは最初次のように述べている。

Che è a porre in donna a cluno amore?  
Ché come al vento si volge la foliga,  
così 'n un dì ben mille volte il core  
di lor si volge, né curan di doglia  
che per lor senta alcun loro amadore,  
né sa alcuna quel ch'ella si voglia.  
O felice colui che del piacere  
lor non è preso, e sassene astenere! (Parte Prima 22)

(なぜ女性を愛するのか。葉が風に合わせて揺れるように、日に何千回となく女性の心は変わるし、女性を愛する人が感じる苦しみを女性は意に介さないし、自分たちが進む方向もわからないのだ。女性の意のままにならなかった男は幸福だ。愛を避けるすべを知っている男も幸福だ。)

最初は愛についてばかにした態度であったが、自分がクリセイダの存在を知ることにつれて次のように変わってしまっている。

Tu sola puoi queste pene noiose,  
quando tu vogli, porre in dolce pace,  
tu sola puoi l'afflizion penose  
madonna, porre in riposo verace,  
tu sola puoi, con l'opre tue pietose,  
tormi il tormento che sì mi disface;  
tu sola puoi, sì come donna mia,  
adempier ciò che lo mio cor disia. (Parte Seconda 101)

(君だけが望めば、わずらわしい苦しみに休息を与えることができます。クリセイダよ、君だけがこの苦しい悩みを本当に休ませることができます。君だけが慈悲深さによって氣力を奪っている苦しみをぼくから取り払うことができます。ぼくの女性として、君だけがぼくの心の願いをかなえることができます。)

ではトロイロにとっての愛とはどのようなものであったか。それは少なくとも「召使のように相手に仕えることである」である。このことを次のように述べている。

Lodava molto gli atti e la statura,  
e lei di cuor grandissimo stimava  
ne' modi e nell'andare, e gran ventura  
di cotal donna amar si reputava,  
e vie maggior, se per sua lunga cura  
potesse far, se quanto egli essa amava,  
cotanto o presso da lei fosse amato,  
o per servente almen non rifiutato. (Parte Prima 34)

(トロイロはクリセイダの振る舞いと器量をほめ、身のこなしと歩きぶりから立派な心の持ち主だと認めた。そういう女性を愛することはこの上ない幸福なことだ思った。さらに長く気をくばれば、自分がクリセイダを愛するように、同じかまたは同じように自分も愛され、少なくとも召使として拒絶されることはないだろう。)

これに対して、クリセイダは愛は変わるものだと考えている。

E se alcuno il mio amor dovesse  
aver, per certo a lui il donerei,  
sol ch'io credessi che e' gli piacesse.  
Ma come tu conoscer chiaro dei,  
che or vaghezze si trovano spesse  
chente egli ha ora, e quattro dì o sei  
durano, e passsan poscia di leggero,  
cambiando amor, così cambia il pensiero.

(Parte Seconda 50)

(だれかが私を愛するというのであれば、その人を喜ばすことができるならその人に私の愛を必ず捧げます。しかし、あなたもはっきりわかっているように、その人が今抱いている思いはよく見られますが、4日から6日続くだけで、簡単に消えてしまいます。それは考え方が変わるように、愛も変わるからです。)

## 2. Amor perfetto について

『フィロストラト』に現われていて、愛の概念を考える時に見逃してはならないのが Amor perfetto であると筆者は考える。この表現は全部で3箇所が使われている。また表現方法は少し異なるが、第2巻の122スタンザでは、t'ama tanto perfettamente という表現が出ている。

E benedico i ferventi sospiri  
ch'io ho per lei cacciati già del petto,  
e benedico i pianti e li martiri  
che fatti m'ha avere amor perfetto,  
e benedico i focosi disiri  
tratti del suo più bel che altro aspetto,  
percioché prezzo di sì alta cosa

istati sono, e tanto graziosa. (Parte terza 84)

(クリセイダのために胸から出した熱いため息に感謝します。本当の愛を持たせてくれた悲しみと苦しみに感謝します。他の女性よりも美しい彼女の顔から引き出された火のような思いに感謝します。というのも、その思いは気高くやさしきものであったからでした。)

Amor perfetto という表現は『デカメロン』にも使われている。それではこの表現は一体どういう意味なのか。「本当の愛」と訳してもそのイメージがなかなかつかめない。これは Tomaseo の辞書には次の説明がなされている。

Amor nascosto e Amor perfetto, nomi volgari di una specie di Aquilegia. (Aquilegia vulgaris, L.) V. AQUILEGIA.<sup>2</sup>

これはまさに宮廷風恋愛の「隠された愛」を示している。また、この説明から「民衆語でオダマキの種類」ということがわかる。Aquilegia (オダマキ) は植物名で、それを同じ辞書で調べると次の説明がある。

La specie più nota è l'Aquilegia comune (A. vulgaris, L.), detta ancora Aquilina, Aquileja, Aquilona, Fior-Cappuccio, Perfetto-Amore.<sup>3</sup>

すなわち、「おだまき」という植物が Perfetto-Amore ということがわかる。この語の語源を辿ると、ラテン語の columbīnus にたどりつき、その花の形が 5 羽のハトが集まっているのに似ているところからつけられたある。<sup>4</sup> ここで「なぜハトが」という疑問がおこる。ハトは、神話・伝承辞典によると、キリスト教ではハトを聖霊シンボルとしているが、もともと性的情熱を表す鳥で、女陰を象徴するとの説明が得られた。<sup>5</sup> もともと、性的情熱の象徴なるハトが、キリスト教で聖霊のシンボルとなった。その後文芸復興の時代になり、『フィロストラト』ではボッカッチョによって、再び「隠された愛」という意味、言い換えれば性的情熱を表す意味に帰還したことを筆者は指摘しておきたい。

### 3. むすび

宮廷恋愛の「愛」の概念はさまざまな作品を通してこれまでも論じられてきた主題である。今回は馴染みが薄く、これまで扱われてこなかった『フィロストラト』を取りあげた。さらに、本稿でボッカッチョの Amor perfetto の概念とこの語句

の変遷を明かにできたと考える。

## 注

\*本論文作成にあたり、豊橋技術科学大学の相京邦広先生から助言を得た。記して感謝の意を表したい。

1. 本稿での作品からの引用は、最後に示したテキストからである。なお、訳は散文訳を筆者がつけた。
2. Nicolò, Tommaseo e Bernardo, Bellini. *Dizionario della Lingua Italiana*. 8 Vols. Torino: Dalla Società L'unione Tipografico-Editrice. 1865. p.405.
3. Op.cit., p.554.
4. Yoshio, Terasawa, ed. *The Kenkyusha Dictionary of English Etymology*. Tokyo: Kenkyusha Limited. 1997. 252.
5. Barbara, G. Walker. *The Woman's Encyclopedia of Myths and Secrets*. Trans. Kazuichiro, Yamashita et al. Tokyo: Taishukan Publishing Company, 1988. 208-9.

## テキスト

Giovanni, Boccaccio. *Caccia di Diana・Filostrato*. A cura di Vittore Branca. Milano: Arnoldo Mondadori Editore S.p.A., 1990.

## 参考文献

Balbina, Alfredo. *Concordanze del "Decameron."* A cura di Alfred Balbina. Sotto la direzione di Umberto Bosco. 2 Vols. Firenze: Giunti, 1969.

Giovanni, Boccaccio. *Filostrato*. A cura di Luigi Surdich con la collaborazione di Elena D'Anzieri e Federica Ferro.



Milano: Mursia. 1990.

Havely, N.R. *Chaucer's Boccaccio. Sources for Troilus and the Knight's and Franklin's Tales.* Translations from the *Filostrato, Teseida* and *Filocolo*. Cambridge: D.S. Brewer, 1992.

Nishimura, Masahito. *A Concordance to Filostrato*. Edited by Masahito Nishimura. Programmed by Katsutoshi Nakamura. Grant-in-Aid for General Scientific Research(C). Toyohashi University of Technology. 1996.

Terasawa, Yoshio, ed. *The Kenkyusha Dictionary of English Etymology*. Tokyo: Kenkyusha Limited. 1997.

Tommaseo, Nicolò e Bellini, Bernardo. *Dizionario della Lingua Italiana*. 8 Vols. Torino: Dalla Società L'unione Tipografico-Editrice. 1865.

Walker, Barbara G. *The Woman's Encyclopedia of Myths and Secrets*. Trans. Kazuichiro, Yamashita et al. Tokyo: Taishukan Publishing Company, 1988.